

池坊短期大学 2019年度 第68回 入学式 式辞

新入生の皆さん、あなた方が池坊短期大学で学ぶことを決意し、本日この入学式を迎えられたことを、まず心からおめでとくと申し上げます。

保護者の方々におかれましては、この日を迎えるまでに、豊かな愛情でお子様を育み(はぐくみ)励まし、見守ってこられたことに感謝しつつ、心からのお祝いを申し上げます。

来賓の方々におかれましては、この、晴れ晴れしく溼潤とした新入生諸君を迎える式典に、ご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。

さて本日、新しい生活への期待を胸に抱いてこの席に臨んでいる新入生の皆さん。

本学では、ご承知のように、557年もの歴史ある「華道家元 池坊」の伝統に基づく華道文化を、教学の基盤に置く「和と美」の建学の精神のもと、日本文化の精神の根幹を理解し、調和的・美的情操を育む「学び」がいよいよ始まります。

あなた方は20世紀の最後の年代に生まれて、21世紀の初めから生きる、まさに21世紀の申し子といえるでしょうし、それにふさわしい「学び」を本学で多くの友人とともに進めてほしいものです。

同時にあなた方は平成の最後の年に入学し、本日入学式当日に新しい元号「令和」が発表され、一か月の猶予の後、まさに令和の時代に学生生活を過ごす最初の世代ともなります。

明治の最初から、元号改正の詔勅が出された直ぐその日からの改元であり、大正も昭和も平成もすべて天皇陛下の崩御による改元であって、日にちの猶予はありませんでした。

天皇陛下の生前退位という中で生まれたこの余裕を生かして、この一か月、さらに元号をまたぐ10連休の中で、しっかりと大学生として「学ぶ」ことの意味を考えてください。

あなた方は、これから、21世紀の人類の未来を担う若者として、すさまじいテンポで展開する時代の「地球の市民」であるとともに、日本社会の一員としての素養を身に付けるための本格的な「学び」の活動に入ることになります。

現在、地球のあらゆる国や地域の経済・政治が関連し、物資や資金と情報さらに人材までも流動し、互いに影響し合う時代となっています。しかし一方では民族主義や国家主義が対立し合い、宗教や風俗・習慣、それぞれの文化の多様性が、その輝きを持って有効に融和と共生に向かわず、互いに自分たちの正義を「自国ファースト」として主張しあう状況も生み出されています。

さらに飢餓・貧困・人権抑圧や社会的不平等、環境破壊、教育や医療の遅れなどの人類的諸課題を解決し『持続可能な平和』を創り出すこともいまだ道半ばです。

今日、こうした世界の中で、日本は経済的な位置づけは保ちつつも、世界の諸課題を解決していくことについては、明確な意思を持ってこれに意見をし、リーダーシップを発揮することができないでいます。

このとき日本の青年は何をなすべきでしょうか。国のあり方をめぐって学び、議論をし、国のあり方を左右するような行動をとれているでしょうか。

あるいは自分の身近なところで、しっかりと社会生活を確認し、異文化交流や共生の生き方を築いているのでしょうか。

はたまた、何のために学び生きるのかということで悩み、進路方向が見つからなくて不安を抱いているのでしょうか。世界と比較するならどちらかと言えは後者の状態が日本だと思われます。

あなた方が生まれて間もなく、日本のアニメーション映画『千と千尋の神隠し』が公開され、アカデミー賞まで獲得しました。トンネルの向こうは不思議の町であり、橋を渡るとそこには八百万(やおよろず)の神々などが癒しを求めにくる古い湯屋、その中で千尋は大きな無力感にめげることなく小さな希望を胸に働き始める。千尋の生きる力が呼び覚まされていくとき、怖かったり魔物のように思っていた登場者たちが、完全な悪人や完全な善人ではなく、皆、心に複雑な弱いものを持ちながら前向きに生きていこうとする存在であることがわかってくる。そしてそれぞれの力を借りながら、それぞれを助けながら、千尋の新しい力が漲ってくる。

これが評価されたということこそが、現代にあって日本の意味なのではないでしょうか。

今世界がわれこそが正しいという原理主義が向き出しになり、力のぶつかり合いが紛争を生み出しています。しかし日本という国は、古来日本語をしっかりと守りながら、中国から文字を取り入れ、中国読みと日本読みの音と訓を使い分け、更にかな文字も発明して、外来語も自由自在に取り入れながら、かえって日本語を発展させてきました。「令和」の原点ともなった「万葉集」も日本の融合文化の象徴でもあるでしょう。

宗教でも、古来の山川や木々の精霊たちに畏敬の神を感じ、また部族一族の祖先の神々を敬い、そして新たに入ってきた仏教の仏達への信仰とを同居させながら、どれが正しいかという原理的衝突を避けて、役に立つものを並行して活用してきました。異なる原理を調和させ、協調しながらも、決して主体性を失わない手法を日本人はもっているはずです。

本学で学ぶ教養教育の根底には、その大切な日本文化の精神性を置いています。地球上の多くの生命体の有機的連鎖のもとに人類が活かされていることを深く理解し、自然との対立や開発ではなく、自然との対話のなかに人間の在り方を見出してきた日本の精神、花それぞれの美の緊張と調和を生かしていく華道のこころなど、伝統文化精神に基づき、勝ち負けを争うことや、他者や異文化を排除する行動ではなく、風俗・習慣・文化それぞれの「美しさ」の多様性を認め合い、「和」の精神で融合・融和と共生・調和をしていくことの根本精神、いわば「生きることのすべてを想う力」や「想う心」を、あなた方は本学で学ぶことができます。

その上にさらに今度は専門的力量を発展させ、技術・技能に習熟することが求められます。

世界には「技能オリンピック」という、手仕事などの技能を競う世界大会が 2 年に一度あり、2017 年において第 44 回目を迎えています。

そこには、機械製図や、溶接、板金、電子部品組み立てなどだけではなく、ウェブデザインやフラワー装飾、美容、ビューティーセラピー、洋菓子製造、造園、グラフィックデザインなど、数十種類の種目においてその技術を競ってきました。

日本はこの十数年を見てもずっと 1 位から 3 位までの地位を保ち、その優秀さを誇ってきました。しかし 2013 年 4 位、2017 年には 9 位という成績で、中国・スイス・韓国などにその座を奪われている状況です。

どうか皆さんは、日本の誇るべき手仕事の技能を本学で身に付け、社会の中でその技能を磨き、また人間と接する姿勢と力量を修得して、「社会力」「人間力」を高めていってください。

本学では、「生きる心」と「生きる力」を集中的に学ぶ2年間で、全教職員が責任をもってサポートし、学生の夢の実現をめざしていきます。

さらに本年から、卒業後3年間の進路の悩みをサポートする仕組みも作りました。

大学生活を共にする、留学生の諸君を含めた仲間との学びの素晴らしさや、実習等による社会との連携活動の経験で一段と成長することのできる大学生活を、能動的に味わい尽くしてください。

保護者の皆様におかれましては、18歳で選挙権を保有した後、本当の大人になっていくこの重要な2年間で、しっかりと後押しをしていただき、学生諸君の自立を促す支援をお願いしたいと思います。

自らの夢を社会生活の中で現実のものとする力量を、しっかりと修得するであろうあなた方に期待をして、あらためて、「ご入学おめでとう」の祝福の言葉を送ります。

2019年4月1日

池坊短期大学 学長 高杉巴彦